

PickUp事業

農福連携事業

恵庭市では、農福連携を通し、障がい者が地域とのつながりを築き、自分らしく働き、自信を持って暮らせる社会を目指しています。

農業実習の試行とネットワークの設立



障がい者の自立と社会参加のために、全国各地で行われている農福連携の取り組み。その取り組みを恵庭市でも実践するため、平成27年に農業実習が試行されました。  
農業実習に参加した就労支援事業所の職員や利用者からの反応も良く、継続して取り組みたいとの声もあったことから、平成28年3月に関係者からなる「恵庭市農福連携による障がい者就労促進ネットワーク」（以下、農福連携ネットワーク）を設立し、農福連携の推進に向けて活動を始めました。

マッチング支援などの農福連携ネットワークの活動



農福連携を進めるにあたって、市がマッチング支援を行うことからスタートしました。要望があった際に、福祉事業所については市障がい福祉課が対応し、農業者については市農政課が対応する等、状況に応じて役割分担しながら地域の関係者へ協力を呼びかけました。  
マッチング支援後も、繋がった農業者と事業所はさらに連携を深め、現在も多くの農福連携の取り組みが継続されています。  
また、農福連携ネットワークでは、マッチング支援のほか、研修会、収穫体験会、会員同士の情報交換などの活動を行っています。

恵庭市農福連携成功事例集の発行



農福連携ネットワークでは、農福連携の普及に向け、恵庭市の取り組み事例を集めた「恵庭市農福連携成功事例集」を発行しています。写真や動画（二次元バーコード）を掲載することで作業内容を「見える化」したほか、具体的な作業の手順や工賃、作業時期、難易度の目安なども掲載しました。平成31年3月に初版を発行して以来、年度ごとに新たな作業を追加しながら改訂を重ね、着実に取り組みを推進してきています。

Agriculture-Welfare Collaboration Program

Through our agriculture-welfare collaboration projects, we strive to be a society where people with disabilities can develop connections with their local communities, be themselves at work, and live with confidence.

今後も農業分野に参加することで利用者さんと農家さん  
お互いが良い関係になれるよう努力していきたいですね。

就労継続支援(B型)やまびこでは、現在14名の利用者がいます。仕事の内容は、布巾やタワシ、ぬいぐるみ等を作り販売しています。企業から依頼される仕事については内職的な作業が多いです。農福連携事業は6年前から行っています。私達の目的として利用者さんへの就労の機会、収入の確保、農家さんにとっては人材の確保と生産の向上という目的があります。期間としては、毎年4月から12月まで行き、農家まで通う作業と、事業所へ持ち込み作業する2つのやり方で行っています。単純な作業であっても利用者さんは真摯に取り組んでいますので農家さんからも大変喜んでいただいています。

今後も農業分野に参加することで、我々にとっては利用者さんの訓練と就労支援2つの効果を推進していきますが、農家さんにとっても生産数や作業効率が向上するよう、お互いが良い関係になれるよう努力していきたいですね。



就労継続支援(B型)やまびこ  
道央地域農業ジョブコーチ  
市丸富男さん

04 災害に強い地域防災力

05 支えあう消防救急体制

06 安全安心の日常生活

07 助け合いのちを大切にすまち

08 夢と健康を育むまち

09 持続可能な地域医療・介護体制



PickUp事業

自主防災組織の育成支援



自主防災組織は、災害による被害を減らすための「自助・共助・公助」の内、「共助」にあたるもので、地域住民が結成する組織です。恵庭市では町内会・自治会単位で組織しており、61の町内会・自治会の内、令和3年4月1日現在、42の自主防災組織が設立されています。  
大規模な災害が発生した場合には、個人やその家族だけの対応では限界があります。その対応には住民同士の結びつきが重要となることから、自主防災組織の組織率向上のための取り組みを行っています。  
また、自主防災組織を設立した後も、出前講座等による防災に関する知識の普及啓発や、町内会防災訓練への協力を通じ、恵庭市の地域防災力強化に向け、働きかけを行っています。

Supporting Development of Voluntary Disaster Prevention Organizations

Voluntary disaster prevention organizations are groups formed by local residents to mitigate damage caused by natural disasters.

This is a form of mutual aid, which is one of the three aid categories (self, mutual, and public).

They are organized by neighborhood and community associations. As of April 2021, Eniwa had 42 such organizations.

市内各地域の防災力を高めていくという事が  
必要だと考えています。

災害はいつ、どこで、起きるのかわからないので、恵庭市では「自助・共助・公助」それぞれがしっかり機能し、災害が起きた際には最小限の被害を抑える減災が大事だと考えています。それには市内各地域の防災力を高めていく必要があります。そのために、毎年「災害対策本部訓練」を行っており、近年では市役所の中だけではなく、町内会の方々と、地域コミュニティFM e-niwaさんと連携し避難指示の発出を想定した訓練を行っています。

また、1日防災学校という取り組みでは、市内の小中学校に講師として、基地・防災課の職員と町内会の地域防災マスターの方々が各学校へ訪問し、共に防災について学ぶ機会を設けています。

現在、恵庭市の自主防災組織は町内会単位で組織していますが、全ての町内会に存在しているわけではありません。今後は、新たに自主防災組織を発足させる働きかけや、人口の少ない町内会にも防災の情報が伝わる仕組みづくりを進めていきたいと思っています。



恵庭市 総務部 基地・防災課  
主事 本田祐輔さん

02 基本目標

誰もが健康で安全安心に暮らせるまち